

## 令和7年1月（第2回）教育委員会会議議事録

### 1. 開催の日時及び場所

令和7年1月30日（木）18:00～19:00

市役所本庁 4階 教育委員室

### 2. 出席委員の氏名

野口 政吾 教育長

田村賢二郎 委員

川崎 裕美 委員

重村 美帆 委員

澤田 英人 委員

### 3. その他議場に参加した者

床本部長、中村次長、佐々木学校教育課長、三好教育総務課長、島谷教育総務副課長、大田教育総務係長

### 4. 傍聴者

なし

### 5. 要 旨

教育長 : ただいまから、令和7年1月30日の第2回教育委員会会議を開催いたします。本日は、委員全員が出席しているため会議として成立していることを最初に報告します。また本日は傍聴の申し出はありませんでした。

教育長 : 次に、本日の会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録署名人は田村委員にお願いします。

教育長 : それでは、本日の議題は、議案第1号「宇部市「学校教育改革プロジェクト」について」、の1件となっています。

教育長 : 教育委員会会議は、公開を原則としていますので、本日の議題について、全て公開としてよろしいですか。

（全員異議なし）

教育長 : 異議がないようですので、本日の議題は全て公開とさせていただきます。

教育長 : それでは、議案第1号「宇部市「学校教育改革プロジェクト」について」、事務局から説明をお願いします。

学校教育課長 : それでは学校教育課から説明します。資料1 現状について、1番上は全国学力・学習調査結果をお示ししています。これを受けて、児童生徒一人ひとりに応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行い、児童生徒の学習意欲を高め、主体的な取組を促していくとともに、学力向上を図っていく必要があると認識し、今後、学力状況を見て、学習意欲の向上及び主体的な取組を進めていきます。次に、不登校児童生徒数をお示ししていますが、かなり課題があると捉えており、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていく必要があると認識しています。次に、時間外在校等時間が1か月当たり45時間超の教員の割合、教員一人当たりの1か月の平均時間外在校等時間です。改善傾向にはあるものの、業務改善を一層推進していくことが必要です。現状を受けて、2【め

【姿勢】として、「ウェルビーイングな学校をめざして」を掲げ、意欲をもって学び続ける児童生徒、誰一人取り残さず、児童生徒の学び合いを支援する教員、すべての人（地域・家庭・児童生徒・教職員）が共に支え合う学校を目指し、これらの課題克服に向けて進めていくプロジェクトとなります。具体的な取組を4つ示していますが、①教育課程改革「5分短縮事業実施＋補充学習時間確保」を行い、令和7年は、小学校6校、中学校3校が実施予定です。②授業改革「単元内自由進度学習」については、授業改革と位置付け、小学校7校、中学校2校が実施予定です。③生徒指導改革「スクールワイドPBS」、児童生徒が示す問題行動に対し、それを罰するのではなく、「望ましい行動を育てる」という発想のもと、学校の実情や課題等を踏まえて場面ごとに行動目標を設定し、学校全体ですべての児童生徒を対象に取り組む組織的アプローチを導入・推進します。こちらは、小学校11校、中学校5校が実施予定です。④学年・学級組織改革「チーム担任制」の導入について、小学校1校、中学校5校が実施予定です。スケジュールについて、令和6年度は検討・研究、令和7年度に先進校実施・研究、令和8年度、令和9年度に各学校で取組を推進し、令和10年度で全市展開をする予定です。説明は以上です。

教育長 : ただ今の説明に対して、ご意見ご質問をお願いします。

委員 : 5分短縮授業について、全曜日が短縮されますか。また、補充学習25分について、児童生徒を25分早く帰宅させ、教員が仕事をすることは可能ですか。

学校教育課長: 全曜日の学校が多いですが、全てではありません。補充学習25分について、令和5年度から教員の時間確保は取り組んでいますので、定着に向けた補充学習時間の確保としています。

委員 : 現状について、全国学力・学習状況調査は、全体としては良い状況にあると思いますが、個々の状況は如何ですか。

学校教育課長: 「良くできる」、「まあまあできる」、「少し課題がある」、「もう少し頑張る必要がある」に区分けした場合、フタコブラクダのような状況は、改善傾向にあるものの拭い去れていない状況です。今後、個々に応じた補充学習が必要と考えています。また、補充学習という言い方をしていますが、「良くできる」児童生徒には、より探究的な学習の時間とするように考えています。

委員 : チーム担任制について、小規模校と大規模校で学級数の違いがあると思いますが、学級数でのチーム制でしょうか。また、チーム差が出る印象もありますので、チームの質が同水準で保たれるような検討もありますか。

学校教育課長: チーム制は、各学校の実状に即した形で編成する予定です。小規模校の複式学級では、担任制は困難であるのが実状ですので、流動的に考えます。チームの質についても、今後、校長先生方と情報共有し、研究しながら検討していきます。

委員 : 授業改革について、学習計画を立てるのが難しい児童生徒に対して、教員がどれだけフォローできるかで学力向上の差が出ると推測します。導入までの数年は、教員負担は増えるものと考えますが如何ですか。

学校教育課長：主に保護者対応や課題準備などの負担があります。校長先生方も同じ意見をお持ちですが、情報交換会を設ける必要があるなどの前向きなご意見をいただいていますので、バックアップしながら進めていきます。

委員：スクールワイドPBSについては、どちらから取り入れたプログラムですか。

学校教育課長：山口大学の宮木准教授が、山口県の普及に関わっていただいております。既に、今年度から黒石小学校、西宇部小学校については、宮木先生と関わりを持ちながら実施しています。

委員：今後、カウンセラーを入れることもありますか。

学校教育課長：可能性として、活用することはあると思います。

委員：スクールワイドPBSについては、組織的なアプローチの導入だと思いますが、指導方法が変わらない教員については、校長先生が指導を行いますか。

学校教育課長：校長先生からの指導では、上手いいかないイメージがあります。地道に丁寧に伝えていくことが大事だと思いますが、教員が変わるきっかけとして、児童生徒が変わっていくと、教員も変わるという、子どもたちに教えられるということは多いと思っていますので、それらを感じ取れる機会になることを期待しています。

委員：不登校児童生徒数について、全国に比べて状況は如何ですか。

学校教育課長：教育支援課に確認したところ、高くもなく、低くもないという状況です。

委員：単元内自由進度学習については、ゴールが見えづらいため、今後、取り組んでいる学校へ参画させていただき、確認していきたい。

学校教育課長：児童生徒の主体的な、学びの仕方を学ぶことに繋げていきたいと考えていますので、是非よろしくお願い致します。

委員：不登校児童生徒数について、年々増加傾向で、登校することに協力的ではない保護者もあり、また、こちらのプロジェクトのみで解決する問題ではないため、教員だけにお任せするのではなく、地域も含めて取り組んで行くということ、併せてお知らせいただくようお願い致します。

学校教育課長：その通りだと思いますので、そのようにアナウンスしていきます。

委員：保護者が授業参観などで教員の授業が魅力的ではないと感じてしまうと、子どもを登校させることに価値を見出せなくなると思いますので、そのあたりも必要になるかと考えます。

委員：併せて、社会に出た場合、学力のみならず、人間力の向上についても、教育には必要であると常々考えます。

学校教育課長：教員改革や人間力向上についても必要な視点だと捉えていますので、今後取り組んでいきます。

委員：不登校は、最終的に引きこもりや自殺にも繋がりますので、教員や教育委員会のみではなく、他業種の専門家も活用することが大事であると考えます。

学校教育課長：今後、「スクールワイドPBS」や「チーム担任制」を推進し、一緒に解決していくよう取り組んでいきます。

委員：短縮授業のデメリットについての検討はされていますか。

学校教育課長：一時的に教員の業務が増えることは考えられます。校長による意見交換会でも、同じ意見がありましたが、工夫しながら取り組んでいくしかないという意見もいただきましたので、意欲を持って取り組むように投げかけをして、進めていきます。

教育長：他にご意見がないようですので、議案第1号「宇部市「学校教育改革プロジェクト」について」は承認ということでよろしいでしょうか。  
(全員異議なし)

教育長：報告については以上となりますが、何かありましたらお願いします。  
では、以上をもちまして、本日の会議を終了します。